

1/20
全ての民主的学友は民学団に結集しよう

教授会の無責任を克服し

全医学部人による協議会の設置を

医デモクラット

No. 2

民主主義学生同盟
市大医学部班
1/20

「教授会の無責任を糾弾せよ！」

教授会は民主化綱領を認めて以降、極めて無責任な態度を示している。

即ち11月24日民主化綱領を（会見の内容として拒否権）認めながら協議会に対し、民主化綱領には拒否権は含まれていないと説明し、独自の具体案まで作成した。ところが12月木会見では具体案を取り下げ、共斗会議案を認め、教授会での検討を約した。更に去る16日には拒否権のない教員会案を支持するや、翌17日には再び共斗会議案を支持した。

我々はかかる教授会の無責任さを厳しく糾弾しなければならない。

同時に、この教授会のみを相手に民主化を進めようとする共斗会議の一筋の無責任さをも鋭く追求しなければならない。医学部民主化斗争は、全医学部構成員、とりわけ主要な構成員である教員会も含めて進めていかねばならない。

拒否権を排し、連絡協議機関を設置しよう

医学部民主化斗争の課題、それは医学部全体を反独占の立場に立たせることである。民主化斗争の目的は学生の無制限なアナーキーな権利要求としての拒否権獲得にあるのではない。拒否権の獲得によって民主化の全てがなされるのではない。

医学部民主化の中心課題は、封建的医局講座制の民主化、政府の反動的文教政策、医療政策粉砕であり、それをなす反独占の立場に立つ医学部を創り出していくことにある。現在の教授会のみを中心とした医学部自治では、これに十分に立ちあえなくなっている。それ故かかる医学部体制に学生が積極的に参加し、その力によって医学部を反独占の立場に立たせることが今や必須となっているのである。我々はそのために医学部の基本的な問題（予算配分、教員と研究に関する基本的な問題、カリキュラム等）を協議し、合意事項について相方が責任を負って遂行する教員と学生の実質的な最高決定権能を持つ協議機関を確立することが急務であると考えている。この協議機関を武器に医局講座制改革の主体たるべき教員会、無給医士をはじめとする医学部全構成員を医学部民主化斗争にまぎ込み、全医学部構成員の斗争連帯により政府独占の反動的文教政策、医療政策を粉砕し、医学部民主化を勝ちとらねばならない。

拒否権=敗北主義を排し医学部民主化実現を。

国際学連の旗の下、単一全学連を再建しよう。